

## 平成15年度に向けた科学技術の戦略的 重点化の考え方について（素案）

### 1 平成15年度に向けた基本的考え方

世界最高水準の科学技術創造立国の実現を目指す。これにより、知の創造と活用により世界に貢献できる国、国際競争力があり持続的発展ができる国、及び安心・安全で質の高い生活のできる国を実現。

（参考）「14年度の予算、人材等の資源配分の方針」の該当部分

- ・世界最高水準の科学技術創造立国の実現を目指し、科学技術基本計画を着実に実行。
- ・これにより、社会、経済を巡る課題を解決するとともに、知の創造と活用により世界に貢献する等、国の持続的発展や国際的地位にふさわしい国の姿を実現。

総合科学技術会議は、これまで、  
分野別推進戦略の作成  
科学技術に関する予算、人材等の資源配分の方針の作成  
科学技術システムの改革（競争的資金の改革と拡充、大学の施設整備、産学官連携の推進、地域科学技術の振興、評価システムの改革等）  
各府省の施策の取組の把握  
等、科学技術基本計画の着実な実行に向けて取り組んできたところ。

特に、平成15年度は、産業の空洞化、高失業率等現下の厳しい経済社会情勢から、産業競争力の強化と経済の活性化が喫緊の課題。

（参考）「14年度の予算、人材等の資源配分の方針」の該当部分

- ・産業競争力の強化と経済の活性化
- ・健康で質の高い生活

- ・地球環境の保全と循環型社会の実現等

## 2 科学技術の戦略的重点化

### (1) 基礎研究の推進

研究者の自由な発想に基づく基礎研究は、人類の知的資産の拡充に貢献し、同時に、世界最高水準の研究成果や経済を支える革新的技術を生み出すものであることから、公正で透明性の高い評価の下で、一層重視。

### (2) 国家的・社会的課題に対応した研究開発の重点化

科学技術基本計画に沿って、ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料の4分野について、引き続き重点を置いて推進。

分野内で重点化すべき領域・事項（重点事項）は、分野別推進戦略を基に、各分野における最新の動向（国内外の研究開発動向、研究開発を取り巻く経済社会情勢の変化等）を踏まえて絞り込み。

特に分野融合的な取り組みを重視。

重点事項の遂行に当たっては、推進方策の明確化及び知的基盤の整備が重要。

(参考)「14年度の予算、人材等の資源配分の方針」の該当部分

(重点化の考え方)

- ・国家的・社会的ニーズが高い、ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料を特に重点を置く分野に指定。
- ・基礎研究を一層重視。
- ・萌芽的な分野融合領域に対して先見性・機動性を持って対応。

(重点事項の絞り込みの観点)

- ・国の政策として実施することの必要性、適時性
- ・政策の明確な実現目標の設定
- ・研究成果の社会・産業への迅速な還元
- ・明確な戦略の下での効果的・効率的な推進。特に、府省にまたがる事項が増えていることに鑑み、効果的・効率的な推進のため府省を横断した取り組みの統合。

(重点事項の遂行に当たっての重要事項)

- ・新たな領域等に対応する人材の育成と確保
- ・計測・分析・評価技術、研究用材料(生物遺伝資源等)、データベース等の知的基盤の整備
- ・知的財産権の取得・活用方策、積極的な国際標準への対応の明確化

### 分野別の具体的な重点事項

5月15日の重点分野推進戦略専門調査会の議論を踏まえて記述。

平成14年度の重点事項については、府省の枠を越えて総合的に研究開発が推進され、成果が社会に還元されるよう、総合科学技術会議が、分野別推進戦略等を基にフォローアップを行っているところ。

平成15年度の重点事項についても、引き続きフォローアップを行い、効果的・効率的な研究開発の推進を図る。

(参考)「14年度の予算、人材等の資源配分の方針」の該当部分

14年度に重点的に推進すべき事項については、政策的目標、各省及び各機関の役割と分担、研究開発上の目標と手法、成果の社会への還元等の計画と実行の状況を、総合科学技術会議が把握し総合的に調整することによって、各機関間の連携、不必要な重複を排除し、効果的・効率的な研究開発の推進を図る。

## 3 経済活性化のための研究開発プロジェクトの推進

特に日本経済を活性化する観点から、次代の日本の産業基盤を構築する、実用化を視野に入れた研究開発プロジェクトを戦略的に同時並行的に立ち上げる。

科学技術を軸として経済活性化を図るに当たっては、比較的短期間で実用化が期待されるもの及び実用化まで比較的長期間を要するものの次代の産業を支えるキーテクノロジーになることが期待されるものをバランスよく推進することが重要であり、両者を積極的に推進。

その際には、総合科学技術会議を中心となって、府省横断的な産学官連携による推進体制を構築。

## 4 科学技術システム改革

- ( 1 ) 競争的資金の改革と拡充
- ( 2 ) 大学等の施設整備
- ( 3 ) 産学官連携の推進
- ( 4 ) 地域科学技術の振興
- ( 5 ) 知的財産の保護と活用
- ( 6 ) 科学技術関係人材の育成と確保
- ( 7 ) 特殊法人

科学技術システム改革専門調査会等において検討中。

## 5 整理、合理化、削減の考え方

重要な施策を重点的に実施していくとともに、必要な整理、合理化、削減を図る。

その際に、従来からの施策は、以下の観点から見直す。また、新規の施策であっても、その必要性等を見極める。

(見直しに当たっての視点)

必要性：国にとって必要であり、現時点で国が関与しなければ実施ができないものか。

計画性：目的を実現するための手段・体制が計画として適切か。

有効性：期待される成果を、期間中に得られる見込みがあるのか。

効率性：期待される成果は、投資に見合うものか。

(参考)「14年度の予算、人材等の資源配分の方針」の該当部分  
同趣旨

## 6 重点化及び整理、合理化、削減の進め方

重点化、整理、合理化、削減は、上記の見直しの視点を踏まえて実施。

平成14年度の概算要求に当たっては、関係府省は、計画性や有効性の観点から、従来の施策の内容又は計画期間の変更等を実施し、総合科学技術会議が確認。

平成15年度の概算要求に当たっても、各府省は、見直しを行うとともに、総合科学技術会議において、各府省がまとめた概算要求事項を踏まえて予算編成過程で検討。

その際、総合科学技術会議は、資源配分の方針を十分に反映した予算編成が行われるよう、必要に応じて予算編成過程で財政当局と連携。

(参考)「14年度の予算、人材等の資源配分の方針」の該当部分

- ・重点化及び整理、合理化、削減については、上記の見直しの視点を踏まえて実施。
- ・具体的には、資源配分の方針を踏まえ、まず各府省において概算要求作業の過程で検討するとともに、総合科学技術会議において、各府省がまとめた概算要求事項を踏まえて予算編成過程で検討。
- ・その際、総合科学技術会議は、この資源配分の方針を十分に反映した予算編成が行われるよう、必要に応じて予算編成過程で財政当局と連携。

## 7 科学技術に対する理解と学習の振興

科学技術の推進の意義について、国民の理解を得るよう努力。  
科学技術に関する人類共通の価値観の形成に向かって、国境を越えた取り組みを推進。

将来を担う若者が科学的なものの見方や考え方等を学習、体得できるよう努力。

(参考)「14年度の予算、人材等の資源配分の方針」の該当部分

- ・科学技術の推進の意義について、国民の理解を得るよう努力。
- ・将来を担う若者が科学的なものの見方や考え方等を学習、体得できるよう努力。